

いつもありがとうございます。近藤麻理恵さんの『人生がときめく片づけの魔法』という本が全米で大ヒットしました。「今までありがとう」と感謝しながら物を捨てる発想が日本的で、アメリカ人には新鮮に映るそうです。「もったいない」や「おもてなし」など、日本人らしさを逆輸入で再認識するとは意外ですね

## 痛快! えだまめ君

画:ほりひろみ



## 知っとこ! 「税務のマメ知識」

### 【「バター」や「渋滞」に税金が】

世界の国や地域にはそれぞれ独自の文化や習慣があり、その違いに驚くことがあります。そして税金においても、「えっ! こんなものに税金が」と驚かされるものがあります。例えばデンマークには「バター税」というものがありました。バターなどの動物性脂肪に多く含まれる飽和脂肪酸を一定以上含む食品に対して課税することで、肥満の原因となる食品の消費を減らして国民の健康を守ることが狙いでした。しかし、特に低所得者層に対する負担が大きいことや、安価な国外商品を購入する動きを助長することなどの理由により約1年間で廃止となりました。またハンガリーでは、2011年に通称「ポテトチップス税」が導入されました。こちらも国民の健康を守ることを目的としているため、



スナック菓子や清涼飲料水など大量摂取すると健康に害をおよぼす食品や飲料品に対して課税されます。その他にはイギリス・ロンドンの渋滞緩和を目的とした「渋滞税」というものもあります。日本においても明治時代に「うさぎ税」という税金がありました。東京でうさぎの飼育が大流行し珍種が高騰したため、普通のうさぎに色を塗って売りさばく詐欺師が登場しました。そこでこうした異常なうさぎ熱を終息させるために、うさぎ税が導入されました。その効果は絶大で、翌年にはうさぎ熱は沈静化したといわれています。

副所長

たなべしげお

田邊繁雄の ~税務の豆知識~



## マイナンバー制度の導入! ご存知でしたか? 【その3 個人番号関係事務実施者】

今回は、「マイナンバー」を取扱う事業者に課せられた、いわゆる「番号法」に定められている義務等についてご紹介いたします。法律では、個人番号を含む個人情報（以下、「特定個人情報」といいます）を取扱うすべての事業者を対象として、特定個人情報の不正に流通することのないよう、当該事業者を「個人番号関係事務実施者」と位置付け、特定個人情報の提供を制限しています。具体的には、「個人番号関係事務実施者」は、個人番号の漏えい、滅失又は既存の防止その他の個人番号の適切な管理のために必要な措置を講じなければならないとされ、個人番号の利用範囲の限定・事務委託規制・安全管理措置・本人確認措置等が責務と定められています。これらの責務については監督組織の立入検査に基づく勧告・命令措置により改善が求められることもあります。

そして、上記命令違反や特定個人情報の不正提供・個人番号の盗用等には、刑事罰が適用されることになっており、相当厳しい制度設計であることは間違いありません。

事業者の方が「マイナンバー」に接する際には、上記の内容をいつも念頭に置いておくことがポイントです!



## 社員のひとこと日記



新緑の美しい季節を迎えています。

山々は、鮮やかな緑のグラデーション。とても立体的で、ダイナミックな姿が心を癒してくれます。

一方、視線を移すと、苗が風になたびく田園風景。

畑には、収穫をひかえた野菜に交じって、総天然色のたくさんの花々に、色とりどりの蝶々たちがひらひらと舞っています。

晴れ渡った良日には、この景色がおだやかな心持ちと、やる気・パワーを与えてくれます。

梅雨までの一瞬（ひととき）、絶景の里道を歩いています、心静かに・・・。

田邊 繁雄

## 365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

### 今月の商売のヒント：【社長に言いたい社員のホンネ】

朝礼で経営理念の「思いやり」を説く社長に向かって、「社内で一番思いやりにないのは社長だよ」と心の中で毒づく社員。その本音は「難しいことはいいから、まずは社員から尊敬される社長でいてほしい」。



口先だけのねぎらいなど社員はすぐに見破ります。立派な態度で正論をぶっても行動が伴っていなければ、社長という立場ゆえに余計見下されてしまうでしょう。いくら雇用関係とはいえ、尊敬できない人のために頑張ろうとはなかなか思えないものです。

儒学の教えである「五常の徳」（仁義礼智信）のなかで孔子が唱えたのは「仁」と「礼」、すなわち「真心」と「礼儀礼節」でした。「人を使う立場にいながら寛大な心がなく、礼儀作法に従いながら尊敬の心がなく、葬儀に参列していながら哀悼の心がない。そんな、心の伴わない上辺だけの人間には何の美点もない」と説いた孔子にとって「心」と「言葉」と「行動」は三位一体の切り離せないものであり、とりわけ「心」が肝心だったようです。

心は外からのぞけません。だからこそ人生の最重要課題は「心を鍛えること」だとされています。「心」と「言葉」と「行動」の三者をいかに過不足なく一体化させるか。孔子が終生その問題を追及したのは、人を導くリーダーにとって何よりも大切なものは品位であるという考えからでしょう。社会の中で自らの分をわきまえ、誠実になすべきことをなし、自分ではどうにもならないこと、例えば立場や状況や能力の限界といった宿命的なものは潔く受け入れる。孔子のいう「品位」とは、こうした「生き方」のことではないでしょうか。

メジャーリーグのオファーを蹴って古巣のユニホームを選んだあの黒田投手が多くのファンに愛されるのは「20億円より4億円」というお金の話ではなく、彼の心と言葉と行動が三位一体だからでしょう。いつの時代も「真心と礼儀礼節を持って事にあたり尊敬されるリーダー」を待ち望んでいるのではないのでしょうか。

